

連絡はがき、会報 では

安西 修一郎氏（外部講師）と紹介させていただきましたが

頂きました資料と著書のお名前でレジユメを作成しました。

第 124 回 6 月 4 日

切手が語るスペイン現代史話—内戦勃発 80 年—

安西 修悦 氏（外部講師）

講師郵趣歴

- (1) 中学 2 年でナポレオン 3 世（ドーデの作品にあった）切手に百貨店で遭遇し購入、蒐集開始。
- (2) 高校 3 年で中止、30 代半ばに購入のみ復活。
- (3) 40 代後半に、母校郵研機関誌に寄稿。
- (4) 定年後、カバーも収集範囲に。総合テーマ：切手が語る政治変遷。
- (5) 郵趣：「フランス切手・国名表記の変遷」掲載。
- (6) 「スペイン現代史の一側面」（三井賞）。
- (7) ユーゴスラヴィアの結成・分割・復活・分解。

切手は歴史の証人

- (1) 歴史に対するストーリーを持っていて、それを語るのに都合の良い図案の切手を配列。
- (2) 切手図案・消印・カバーを読み取って、歴史のストーリーを組み立てる。
- (3) 特定の事件・人物・場所などの図案切手収集。

例：フランスの政変に伴う切手国名表記の変遷

JPS 会員、切手研究会会員、郵研三田クラブ会員



スペイン現代史の一側面

—内戦勃発 75 周年にちなんで—

An Aspect of Modern History of Spain

安西 修悦

ANZAI Shu'etsu

《はじめに》

本稿は、当時の郵便マテリアルを時系列史料として用いた「内戦を軸としたスペイン現代史」のドキュメンタリーである。内容：前史、共和派對国粋派の内戦勃発、両政権の国名と検閲、多様な地方切手、独伊「志願兵」と国際旅団の介入、国粋派フランコ政権の対ソ戦線派兵と第二次大戦後、フランコ体制から立憲王国への漸進的变化。略記：発行または押印時期（年・月・日）

1. 国粋派と共和派

15 世紀末に支配者モーロ人をモロッコに追放して成立したスペイン王国は、アメリカ大陸などに跨る膨大な植民地帝国を誇った。

スペインは、16 世紀末に同国無敵艦隊が英国艦隊に敗れ、18 世紀初頭にはイベリア半島南端のジブラルタルを英国に割譲し、衰退の道を歩んだ。19 世紀末の米西戦争に敗れたスペイン王国は、主要植民地を失い（図 1）凋落し



図 1 （いずれも左から）

上段：スペイン領時代のキューバ（1898）、フィリッピン（1898）、プエルトリコ（1898）

下段：米占領下のキューバ（1899）、グアム、フィリッピン、プエルトリコ



図 2

た。図 2 (1898) は、スペイン王国のアリカンテ地方自治体が発行した艦隊戦費寄付金用任意貼付切手である。標語「VIVA ESPAÑA: スペイン万歳」は、スペイン内戦時に国粋派側の標語としても用いられた。



図 3

その結果、モロッコは、国粋派軍人の根城となった。図 3 は、スペイン切手を台にした「スペイン保護領モロッコ郵便」切手 (1916) である。

隣国ポルトガルや独・奥・露の君主制崩壊によって力づけられた共和派は、1931 年 4 月にアルフォンソ 13 世のプ



図 4



図 5

ルボン王朝を廃してスペイン共和国を樹立した。

図 4 は首都マドリッドで、図 5 はカタロニア州都バルセロナで、アルフォンソ 13 世の肖像を「REPUBLICA: 共和国」加刷で抹殺した新共和国切手 (1931・4) である。



図 6

共和国は分離志向のカタロニアへの自治付与を行った。他の地方自治体とは違って、バルセロナ市には付加金切手発行

(図 6、1932) が許された。共和国は、反カトリック施策・労働階級の優遇政策も行い、国粋派との確執が深まった。

2. 内戦勃発

1936 年 2 月には、総選挙により人民戦線内閣が成立した。それに危機感を抱いた軍部の国粋派は、同年 7 月 17 日に各地で反乱を起こした。カナリア諸島方面軍司令官フランコ將軍 (国粋派) は、蜂起後に同島ラ・パルマスからモロッコのメリリャに飛び、現地の国粋派部隊を指揮下に置いた。図 7 (フランコ政権、1936・12) は、スペイン南端アルヘシラスへ上陸するフランコ軍を描いている。本土進撃には、独伊の飛行



図 7

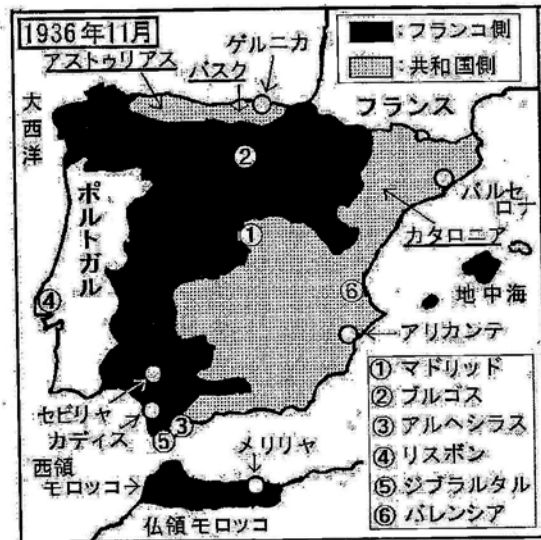


図 8 スペイン・ポルトガル史 (山川出版社、7 章): 世界歴史地図 (帝国書院) を基に作図

機や艦船が援助した。

図 8 は、内戦初期の国粋派軍と共和国軍の勢力範囲である。戦う共和国軍の正規兵と市民兵が、図 9 (1938・9)



図 9



図 10

あったと考えられる。

一方、フランコ政権は、モロコ人を駆逐して統一スペインを築いたイザベル 1 世女王 (図 13、1937) やフェルナンド・カトリック王 (図 14、1937) の肖像切手発行で、本土の国粋的な国民をなだめている。ここには、フランコ



図 11



図 12

と図 10 (1938・11) に描かれている。図 10 は、一般市民の戦闘への参加がこの内戦の特徴であることを示している。

内戦のもう一つの特徴は、フランコ軍がモロコ兵士をモロコから連れてきたことである。図 11 (フランコ政権、1938・7) と図 12 (西領モロッコ、1937・7) にはモロコ兵の行進が描かれている。モロコ兵を描く切手の発行は、フランコ軍の有力戦力だったモロコ兵督励のためで



図 13



図 14

政権の建前と戦術の矛盾が見える。

3. 「スペイン共和国」対「スペイン国」

共和国側は、主として国名表記「スペイン共和国」の切手を発行した(例: 図 15、1933)。叛乱によって成立したフランコ政権(首府: ブルゴス)は同じ図案で、国名表記を「ESTADO ESPAÑOL: スペイン国」に変えた切手を発行した(図 16、1936)。両政権が国家の正当性を競っている様子がこれからもわかる。

フランコ政権切手の国名表記はまもなく「スペイン郵便」(例: 図 17、1937)に統一され、同政権のスペイン本流意識が読み取れる。

図 18 は、共和国支配地マドリッド(差出印 1938・4・21)からブラハ宛(着印 1938・4・25)のカバーである。「REPUBULICA ESPAÑOLA CENSURA: スペ



図 15



図 16



図 17

イン共和国検閲」が検閲開封後の再封シールに押印されている。

一方、フランコ軍支配地セビーリャからライブチヒ宛のカバー(図 19)には、「SEVILLA CENSURA MILITAR: セビーリャ軍事検閲」の押印はあるが、再封シールは見当たらない。開封していないことは、このころセビーリャで取材していた東京朝日新聞特派員坂井米夫氏の報告『電報はスペイン語で検閲を受け、封書はすべて開封のまま投函しなければならぬ。』に対応している。これは、まさに戦地の郵便である。

このカバーが戦乱のスペイン内部ならびに人民戦線統治下だったフランス経由でドイツへ郵送されるのではなく、フランコ政権を隠密裏に援助したポルトガルを経由していることをリスボン中継印(挿入図)が示している。なお、図 18 の中継印(挿入図)はパリである。

4. 内戦時の多様な地方切手

図 19 のカバーには、右上にセビーリャ自治体発行の強制付加金切手(1936)が貼ってある。フランコ政権側地域の地方自治体では、内戦期には各地で強制付加金切手が発行された。例えば、図 20 (ルゴ、1937) や図 21 (カディス、1937) などがある。

フランコ政権の内戦勝利後、地方自治体自治の象徴であった強制付加金切手はバルセロナを除いて発行されなくなった。フランコ政権は、中央集権を目指していたが、付加金切手発行を認めるこ



図 18 (70%)



図 19 (70%)



↑ 図 20 図 21→

とによって内戦下の地方自治体を懐柔したものと読みとれる。

フランコ政権側は、占領各地で正刷切手に地名や占領時期や標語「VIVA ESPAÑA」または「ARRIBA ESPAÑA: スペイン万歳」を加刷した臨時切手を多種発行した。図 22 は、フランコ軍が占領したメリリヤの例 (1936・10) である。自軍の進撃を民衆や国外に誇示するためにこの範疇の切手が発行されたと推



図 22

定される。

図 23 は、ラス・パルマス (1937・7・3) から本土のカディス着 (挿入図: (1937・7・7)) の航空便絵葉書である。これには、フランコ軍が占領したカナリア諸島名加刷切手が右上に貼っており、中央下には共和国発行の無加刷切手が貼ってある。対立する両体制切手混貼り郵便物がフランコ政権側の発着両郵便局を通過したことになる。郵便局員が見落としたか、密かに共和国側に同情する局員がいたのであろう。

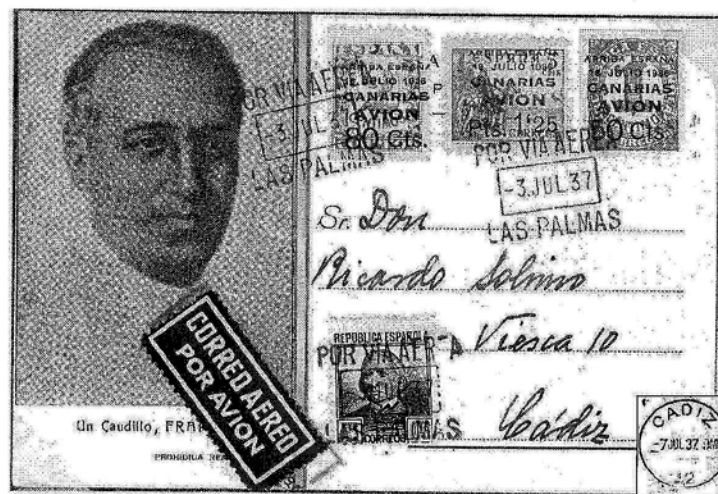


図 23 (70%)

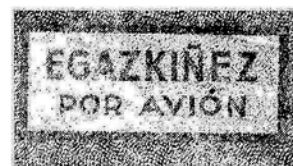


図 24

内戦初期にはスペイン共和国は南北に分断された (図 8)。孤立した共和国北部では、遅まきながら 1936 年 10 月にバスク自治憲章が制定された。バスク陥落間際にはバスク自治政府が航空書簡 (図 24, 1937・5) を発行した。左上の航空便を意味するバスク語「EGAZKIÑEZ」は、スペイン語「CORREO AÉREO」とは全く別種の言語である。

やはり北部地域に孤立したアストゥリアス地方では、収入印紙に「CORREOS: 郵便」と加刷して郵便切手を作った (図 25, 1937=未発行)。

共和国領域にあるカタロニア地方は引き続き付加金切手を発行していた (例えば図 26, 1938)。内戦末期 (1939 年 1 月) にバルセロナが陥落すると、



図 25



フランコ軍が占領日付と標語をこれに加刷 (図 27, 1939・2) して発行した。

抗戦したバスクやアストゥリアスでの地方切手は、フランコ軍占領後には現れなくなった。共和国時代から高度の自治を享受し、人口も多いカタロニア地方については、「AYUNTAMIENTO DE BARCELONA: バルセロナ市参事会」表記の付加金切手を 1945 年まで発行した (例えば図 28, 1940)。これは、分離



図 26



図 27



図 28

意識の強いカタロニアの民意を懐柔しようとしたフランコ政権の方策と考えられる。

この時期の地方切手発行盛衰

には、フランコ側と共和国側の巧みな戦略的地方政策が反映している。

5. 外国の干渉：独伊「志願兵」と国際旅団

スペイン内戦は、「西欧民主国家＋ソ連」を背景とした共和国人民戦線支援の「国際旅団」対独伊干渉軍の戦いでもある。第二次大戦の前奏曲といわれる。

国粋主義を標榜するドイツの影響は、フランコ軍地域の冬季救済寄付強制貼付切手（図 29 挿入左下、1936）の図案がナチス党の鷲紋章（同左上、1935）に酷似していることから想像がつく。

ドイツが派遣（志願兵）したコンドル軍団の凱旋帰国式（内戦終結 3 ヶ月後）記念印が図 29 右である。ナチス紋章とファランヘ党（主席：フランコ）紋章「東矢」の組み合わせが見られる。コンドル軍団は、バスク地方のゲルニ

カで非戦闘員を無差別爆撃したとされている。

ファシスタ党統治下のイタリア王国とスペイン国との親善関係は、ローマ・カディス飛行記念切手（図 21）にも表れている。

ムッソリーニ統帥支配下のイタリアは、ファシスタ党黒シャツ隊と正規軍からの「志願兵」を数万人ほど派遣した。派遣された黒矢部隊兵士差出のカバー（図 30）には、押印「第 8 特別公用便 1938 年 12 月 30 日」と伊国王肖像切手がついている。これは、送付者がイタリアの公務従事者であることを示している。裏面（挿入図）にはローマ着印「DISTRIBUZIONE: 配達、(1939・1・6)」と黒矢部隊「BRIGATA LEGIONARIA FRECCHE NERE/55 BATTERIA ANTICARRO: 黒矢志願旅団第 55 対戦車砲兵中隊」の封印がある。

この部隊は、イタリア人の士官とスペイン人の下士官・兵で構成されていた。押印の言語は、スペイン語「FLECHAS NEGRAS」ではなくイタリア語「FRECCHE NERE」であり、イタリアの優越性を示している。差出日 1938 年 12 月 30 日の頃には、イタリア干渉軍とフランコ軍はカタロニア地方征服作戦の只中であった。

ヨーロッパ諸国はスペイン内戦への不



図 29



図 30 (60%)



図 31 (70%)

干渉を申し合わせたはずなのに、このような堂々たる干渉行為の証拠がドイツやイタリアで現れている。これは、当時の独伊の強引な対外政策の証である。



図 32

一方、ソ連やフランスの有志、ドイツやイタリアの反ファシスト志願者が国際旅団として共和国側に加担して戦った。国際旅団兵士からバリ宛差出カバー（図 31）の押印には、「B. I. = Brigadas Internacionales: 国際旅団」「estafeta de cambio: 臨時郵便局」「base movil: 移動軍事基地」とある。



図 34 (50%)

裏面（挿入図）には、「軍事検閲のため臨検された」の角印とバリ着印がある。

共和国軍は、差出日の 1938 年 8 月頃には国際旅団とともに最後の反攻作戦に出ていた。反攻作戦の失敗、11 月の国際義勇旅団解散、年明けのカタロニア失落等により、共和国は敗北した。1939 年 4 月 1 日にはフランコが内戦勝利を宣言した。

6. フランコ政権勝利と対ソ戦線派兵

フランコ政権は、「陸軍の日記念」名目で内戦勝利記念切手を発行した（図 32、1939・7）。

フランス共和国は共和国側避難民に対し通常切手に「F=Franchise: 郵便料免除」と加刷した切手（図 33、1939）を発行した。



図 33

内戦勝利後 6 ヶ月で第二次大戦が始まり、スペインは中立を宣言した。中立国アメリカへの国際便カバー（図 34）は、フランコ統治下では郵便検閲が残るなど戦時体制に近い郵便事情であったことを示している。

しかし、以下のように徐々に

平時業務に近づいてはいる。再封シールがついているので、開封検閲は受理後であろう。再封印は、1940 年 2 月出立物（同図左下）では「軍事検閲」、1941 年 10 月出立物（同図右上）では「CENSURA GUBERNATIVA: 政府検閲」に変わっている。

切手に驚付き国章（同図右下: 5 節）とフランコの肖像が現われた。後者カ



図 35

バーでは「FRANCO」名入り消印も使われ、フランコ総統に対する独裁国家特有の個人崇拝が盛んになった。

フランコ政権に対して軍事的経済的援助をしたヒトラーは、英領ジブラルタル（スペイン側からの眺望: 図 35、1938）返還を条件にフランコに独伊側での参戦を求めた。フランコはこれを拒否したが、独ソ開戦後には「青い師団」と呼ばれる反共を名目とした義勇部隊延べ 5 万人（形式的には志願兵）を独ソ戦線に派遣した。

図 36 上は、義勇兵差出スペイン・パレンシア宛の同派遣軍用検印「Sp: Spanien (独語)」付きカバーである。「Sp」以外に右上のドイツ野戦局印



図 36 (上=宛名面は 70%)

(1942・7・14)と左上のドイツ国防軍郵便検閲印がある。裏面(図 36 下)には、差出兵士氏名と「ドイツ野戦郵便(スペイン語)、野戦郵便コード 18880B(独語)」が書かれている。派遣軍はスペイン軍としてではなく、ドイツ軍に従軍したので、このような二言語表示になったのであろう。

このコードの部隊(第 269 歩兵連隊第 2 大隊)は、1942 年 8 月からレニングラード包囲戦に参加した。枢軸側の敗色が見えた 1943 年にはフランコ政権は独ソ戦派遣部隊を撤収した。

7. 第二次大戦後

独伊に好意的な中立国だったスベ



図 37

ンは、連合軍勝利後に戦勝国から厳しい待遇を受け、国連総会では排斥が決議された。東西冷戦初期のフランコ政権は、国内米軍基地設置認可により西側の一国として自国を順次国際社会に復帰させた。図 37 は、国連創設 25 年記念切手(1970)であり、この年はスペイン国連加盟 15 年にもあたる。切手に登場しな



図 38

かった敗者「国際旅団」の姿が東側諸国の切手に現れた。ポーランドは国際旅団の周年記念切手(図 38、1946 と、他に 1966)、東独は反ファシズム自由闘争の英雄記念切手(図 39、1966)を発行している。チェコスロヴァキアは、ピカソの独軍ゲルニカ無差別爆撃抗議絵画を切手にしている(図 40、1966 と、他に 1981)。東側諸国は、スペインでの反ファシズム人民戦線闘争を宣伝し、人民戦線的平和攻勢に利用した。

他方、フランコ政権は国粋派決起と内戦終結の 25 年記念切手を発行して、内戦勝利はスペインの平和と繁栄をもたらしたと宣伝した。図 41 (1964)はその一例である。

このころ、アジア・アフリカでの民族独立運動が盛んであった。1956 年に、



図 40



図 39 (60%)

フランコ政権はモロッコ王国(図 42、1957)の独立を認めたが、メリリヤなどのモロッコに囲まれた飛び地は保有したままである。一方で、スペインは、同国側から見た英領ジブラルタルを描く切手(図 43、1969)も発行し、対モロッコ・対英領土問題でのジレンマを 21 世紀に持ち越した。

8. フランコ体制から立憲王国への漸進的変化

1947 年に、フランコ政権は「スペインは王国であり、終身総統のフランコ死後には国王を迎える」と宣言した。1975 年のフランコ逝去により、フランコが指名したアルフォンソ 13 世の孫



図 41



図 42 →



図 43



図 44

図 45

ファン・カルロス 1 世が即位した。

1940 年から続くフランコ肖像切手発行は 1975 年 7 月が最後 (図 44) になり、翌年からはこれと酷似した意匠の新国王肖像切手 (例えば図 45、1977) が発行された。あたかも同一シリーズに見える両肖像切手意匠から、緩やかな体制変化が想像できる。

体制変化の象徴を (a~c) にあげる。

(a) 憲法改正によるバスクやカタロニアなどの地方自治復活記念切手 (それ



図 47



ぞれバスク語とカタロニア語が現れている; 図 46 (1979)、図 47 (1979)。

(b) フランコ時代には忌避されたピカ



図 48 (65%)

ソの絵画ゲルニカ (7 節) がマドリードの博物館に収納された記念切手 (図 48、1981)。

(c) 驚つき国章 (例: 図 34 右下) から驚無し国章への復帰記念切手 (図 49、1983)。



図 49

モーロ人支配時代のモーロ人科学者業績を再評価した切手発行 (図 50、1986) は、15 世紀以来のモーロ人との関係変革を意味している。

1986 年、欧州諸国は普通の立憲君主国としてのスペインを欧州共同体 EC に迎え入れた (図 51、1986)。



図 50



図 51

《むすび》

スペイン現代史のドキュメンタリーは、主としてポスターや写真を史料としたものであった。郵便マテリアルはそれらには見当たらない次の側面を垣間見せてくれる。

(i) 切手上の国名表記は、共和革命やフランコ政権発足の激しい変遷では変化するが、漸進的変化のフランコ体制→カルロス王政では変化しない。

(ii) スペインの伝統である地方自治に対するフランコ政権側と共和国側の戦略の違いが地方切手発行状況に現れている。

(iii) イタリア干涉軍兵士や人民戦線参加国際旅団兵士、「青い師団」志願兵の悲痛な叫びが肉筆の郵便物上に感じられる。

(iv) 第二次大戦後になっても、内戦について思想上の確執が、人民戦線を推す東欧諸国とフランコ政権の切手発行政策を通して火花を散らしている。

(v) 「追放・征服・内戦での呼び戻し・独立・再評価」というモーロ人との関係変化が諸切手上に見える。

筆者は、国際旅団カバー (図 31) 押印を解読してくださったスペイン郵便

史研究家 F. Boatwright 氏、青い師団の Web 文献をご教示くださった JPS 会員の人見敦氏に感謝いたします。

主要参考文献

・歴史的時系列情報

- [1] H. トーマス (都築訳) ; スペイン市民戦争 (I, II)、みすず書房、1963
- [2] 齊藤 孝 ; スペイン戦争、中公新書 104、中央公論社、1966
- [3] 川成 洋 ; 図説スペインの歴史、河出書房新社、1999
- [4] 坂井米夫 ; ヴァガボンド通信、改造社、1939、坂井米夫 (川成編) ; 動乱のスペイン報告、彩光社、1986

・青い師団・イタリア干涉軍・国際旅

団の情報

- [5] <http://axis101.bizland.com/SpanishFeldpost2.htm>
- [6] http://it.wikipedia.org/wiki/Corpo_Truppe_Volontarie
- [7] http://en.wikipedia.org/wiki/Flechas_Negras_Division
- [8] http://es.wikipedia.org/wiki/Brigadas_Internacionales

・切手情報

- [9] Catalogo Especializado-Galvez della sellos España 25th Ed. 1960
- [10] <http://catalogoselloscasandra.es/>
- [11] Unificato Europa Vol. 3、2005
- [12] Michel Europa-Katalog、WEST 1995/96

時系列情報 (参考書 : 図説スペインの歴史、川成・宮本、河出書房新社)

- 0716 イスラム勢力、イベリア半島制圧。
- 1031 キリスト教徒による国土回復戦争開始 (レコキスタ)。
- 1141 ポルトガル独立。
- 1469 アラゴン王国皇太子フェルナンド、カステーリャ王国王女イサベルと結婚。1479 スペイン統一王国。1492 レコンキスタ終了。
- 1493 コロンブス、スペインの後援でアメリカ大陸到達。
- 1588 英艦隊、スペイン無敵艦隊を撃破 (アルマダ会戦)。
- 1704 ジブラルタルを英国に割譲。
- 1808 ナポレオン、スペイン侵攻。民衆蜂起 (ゲリラ戦)。
- 1810 カデイスでの議会で最初の立憲制憲法。
- 1814 フェルナンド 7 世、憲法破棄 (後、暫定施行)。
- 1818 チリ独立等、イスパノアメリカ諸国独立。
- 1850 ブルボン朝イサベラ 2 世の下で最初の郵便切手発行。
- 1868 イサベラ 2 世を追放、臨時政府、アマデオ 1 世の即位と退位。
- 1873 第一共和国。
- 1874 共和国崩壊で、ブルボン朝復帰 ; アルフォンソ 12 世即位。
- 1898 アルフォンソ 13 世の下で、米西戦争敗北。キューバ・フィリッピンなど米国に割譲。
- 1909~1927 モロッコ領有戦争。北部はスペイン保護領。
- 1931 第二共和国成立。1975 年までブルボン朝国王不在。
- 1936 人民戦線内閣成立、7 月 : 内戦勃発。10 月 : 反乱側、フランコ国家主席兼総司令官。独伊、反乱軍を援助。国際義勇旅団、政府側に参加。
- 1937 フランコ軍、自治地域バスクを制圧。
- 1939 フランコ軍、バルセロナ占領 (1 月) ; 自治地域カタロニア制圧、マドリッド占領 (3 月)、全土占領で内戦終了 (4 月)。
- 1941 ドイツ軍傘下で「青い師団」を独ソ戦線派遣。1943 年、撤収。
- 1945 国際的孤立。1955 年の国連加盟で国際社会復帰。冷戦で西側に。
- 1975 フランコ終身国家元首没、ブルボン朝ファン・カルロス 1 世即位。

三井記念美術館のご案内

所在地 : 東京都中央区日本橋室町 2-1-1、三井本館 7 階

入り口は日本橋三井タワー 1 階アトリウム

開館時間 : 10 : 00~17 : 00 入館は 16 : 30 まで

電話番号 : 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

詳しい問い合わせやイベント情報はインターネットのホームページで

U.R.L : <http://www.mitsui-museum.jp>